關新吾（せきしんご）政論家、小説家、漢詩人。安政元年備前國生れ、大正四年九月十二日歿（一八五四～一九二五）。講新、字之經・之弘、幼名孝太郎。號自由郷主人、黄蕨等。自由民權論を講新聞に寄稿し、明治八年『東京曙新聞』論説記者となる。翌年雑誌『評論新聞』を筆禍に遭ひ、大阪日報社に轉じた。次で岡山に移り中國言論界で活動後官界に入り、十二年元老院御用掛から權少書記官、新潟縣・廣島縣書記官、大分・福井縣令を歴任。のち官を退き大阪朝日新聞社入社、更に山陽新報社社長となった。

著書に『俗夢驚談』（中島勝義共著、明治九年十一月吉岡平助出版）、小説『慨世蓬長土』（黄蕨逸史名、明治二十一年十月六日刊山・阿部千代松刊、大阪・藤光舎）、『十會花芳義菩吾傳』（大正二年七月二十一日小林武之助刊）等の他、山脇魏編・關新吾訂『偶評今體類才文鈔』（初篇・明治十一年三月、二篇・五月、三篇・七月實文軒）、李（レ）全得（ゼンダー）著・小松原英太郎譯・關新吾校『日本開進論』全五册（明治十二年一月十五日版權免許・三月刊行、成允堂藏版、大阪・山田湖郎出版、吉岡平助發賣）等がある。